

テーマ展示「新納忠之介による仏像調査について」

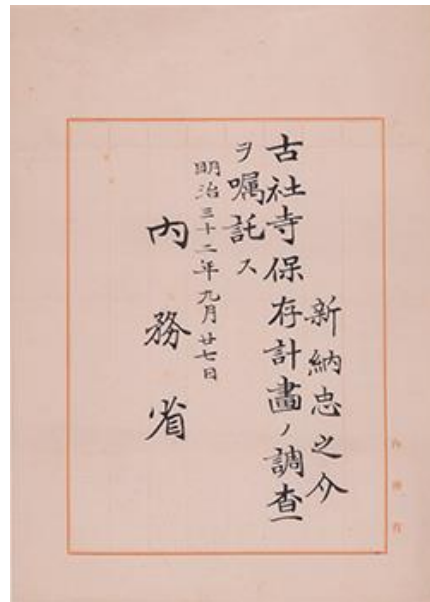
明治30(1897)年、岡倉天心の尽力により古社寺保存法が公布され、国宝(通称「旧国宝」)。現在の国宝および重要文化財に相当)に指定された仏像が国家予算によって修理されることになった。天心により、日本美術院で仏像修理の責任者に抜擢された新納(にいろ)忠之介は、明治32年9月27日、内務省から「古社寺保存計画ノ調査」を委嘱され、同日付で東京・神奈川・静岡への調査出張を命じられている。

記載内容と日付(年は不詳)から、その時の調査記録と考えられるノートが2冊残されている。1冊目では、新納は10月7日から24日まで静岡県内を調査して伊豆に至り、25日に神奈川県箱根を抜け、小田原、静岡県熱海(神奈川県と隣接)へと足を伸ばし、29日の神奈川県大磯でいったん調査を終了していることが分かる。2冊目では、11月9日に東京から鎌倉入りし、10日には鎌倉を、11日からは神奈川県西部を、15、16日に三浦半島を調査し、3日間の休止を挟んで、20日から23日まで再度鎌倉を、24日は鎌倉と近い横浜金沢と藤沢を調査、25日に伊勢原の宝城坊(ほうじょうぼう)、さらに1日間(26日か)横浜の弘明寺(ぐみょうじ)と川崎の影向寺(ようごうじ)を調査していることが記載されている。なお、東京の調査記録を記したと思われるノートは現在所在が確認されていない。

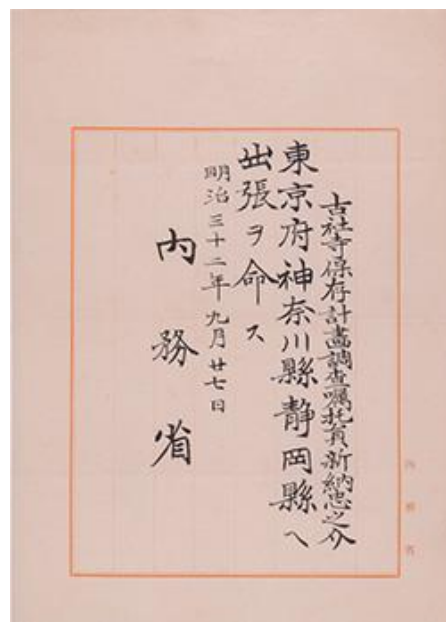
ノートには調査した仏像の名称に「◎」「○」の印や、「設計」「認定」などの注記があるほか、神奈川県内の調査ノートには修理候補と思われる仏像の一覧を記したページがあり、そこには鉛筆書きの本文と異なる墨書で「設計ノ分」の注記が記されているほか、線を引いて消されている仏像もあって、修理候補から外した様子がうかがえる。この一覧にある仏像の大半が調査直前の32年8月、もしくは翌33年に国宝指定を受け、33年から34年にかけて修理されていることから、この調査が修理を担う新納による実物調査と修理候補の絞り込みといった実効性のあるものだったことを物語っている。

展示資料

内務省辞令「古社寺保存計画ノ調査ヲ職託ス」明治32年
当館蔵(新納義雄氏寄贈)



内務省辞令「東京府神奈川県静岡県へ出張ヲ命ス」明治32年
当館蔵(新納義雄氏寄贈)

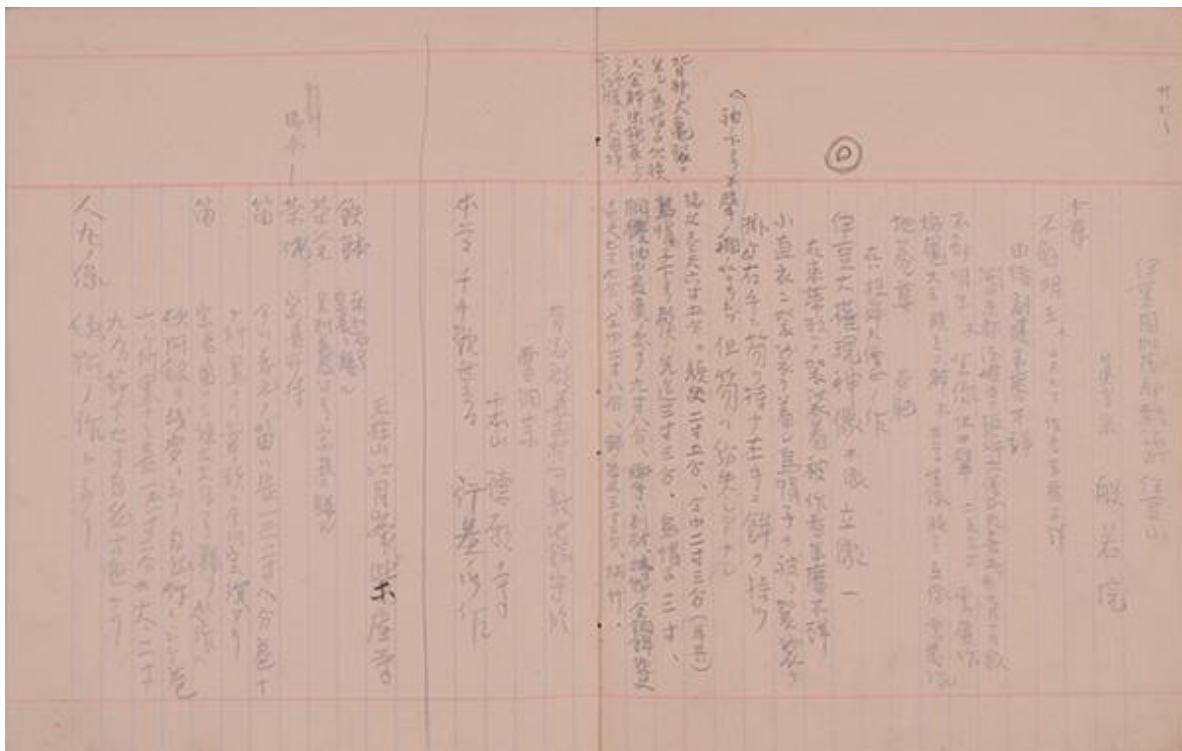


新納忠之介ノート（調査記録：静岡、神奈川） 明治32年頃
当館蔵（新納義雄氏寄贈）

2冊のノートは同じメーカーのノートで、1冊目は10月7日から10月29日まで静岡・神奈川両県の、2冊目は11月9日から11月25日まで（その後一日分の記録には日付がなく26日実施と推測）の神奈川県内の、それぞれ寺社調査の内容が主に鉛筆で記されている。東京・神奈川・静岡三府県の調査出張を命じる9月27日付辞令と矛盾のない日程、および記録内容から、この辞令を受けて調査した際のノートと推定できる。

1冊目のノートは、冒頭約30ページにわたり調査と無関係の仏像や仏具などのスケッチが描かれており、調査にあたって転用したものと思われる。2冊とも、基本的には見開きの左ページを使って調査内容を記録、右ページはメモ欄のように使っているため、11月20日と21日の間に記された「設計ノ分」の仏像一覧がいつの時点で記されたかは不明である。

般若院・伊豆山権現立像について、「修復ニハ大困難ノ方ナリ」と記され、仏像修理を始めて3年の若き新納の心情がうかがい知れる。



◎伊豆大権現神像 木像 立像 一

右束帶形ニテ袈裟着被そくたい 作者年歴不詳

小直衣ニ袈裟ヲ着シ烏帽子のうしヲ被リ袈裟ヲ

掛ケ△右手ニ笏しやくヲ持チ左手ニ鉾ほこヲ持ツ

袖ノ下ヨリ半掌ノ欄はんびノ如キモノ出ツ 但笏ハ紛失シテナシ

總丈老尺六寸五分。顔丈二寸五分、全巾二寸三分(耳共)

烏帽子下ヨリ鬚ひげノ先迄三寸三分、烏帽子三寸、

胴體袖中最廣ノ處どうたいニテ九寸八分、両手ハ別材、持物金銅鉾惣丈

老尺七寸七分、全巾二寸八分、鉾の惣丈三寸三分、柄ハ竹。

背部ニ大亀裂ヲ

生シ 烏帽子欠損

ス 全軀虫蝕ぜんたいちゆうしよく甚シク

シテ修復ニハ大困難ノ

方ナリ

「設計ノ分」記載仏像と国宝指定年月・修理年対照表

仏像名称・寺社名称	国宝指定年月	修理年
薬師如来 油山寺 静	(未指定)	/
○菩薩ノ面 三尊 アト五面四葉 八幡宮	明治33年4月	明治34年
△地藏尊 設計分 浄智寺	※後ろから2行目に重複	
△上杉重房像 設計ノ分 明月院	明治33年8月	明治33年
○聖徳太子像 明月院	(所在不明)	/
○観音 東慶寺 神	明治33年4月	明治34年
○薬師三尊 靈山寺 神	明治33年4月	明治33年
○千手観世音 智満寺 静	明治33年4月	昭和7年*
○伊豆山権現 般若院 静	明治33年4月	明治33年
△十一面観世音 設計 杉本寺	明治32年8月	明治33年
△十一面観世音 設計 杉本寺	明治32年8月	明治33年
○薬師三尊 影向寺 神	明治33年4月	明治33年
△地藏尊 設計 浄智寺	明治32年8月	明治34年
△北条時頼 設計 建長寺	明治33年8月	明治34年

*「○」「△」印の意味するところは不明。
 *「静」「神」は静岡、神奈川を意味すると考えられる。
 *八幡宮は鶴岡八幡宮のこと。また、靈山寺は宝城坊として知られる。
 *智満寺・千手観音像は、60年に一度開帳される秘仏のため、明治33年
 34年の修理は行われなかった可能性が考えられる。

廿一日

本日暖ニ□ン
 午前九時八幡神
 社ニ至リ終日
 寶物ヲ調査ス
 午后四時頃ヨリ
 返ト同行長谷
 二至リ曲王ヲ待
 テ五時過歸
 館ス本換内
 務省稲垣 □正
 氏ヨリ過日ノ返書
 来ル

鎌倉郡 鶴岡八幡宮

○菩薩面 表面
 縦七寸五分、横六寸七分 高四寸三分
 全面木地金箔置キナレ共今ハ剥落シテ所々ニ
 旧箔ヲ存スルノミ 寶冠ヲ被リ白毫ハ現在
 槍ヲ以テ製シ假ニハメタルモノ 昔ハ水晶ヲ用ヒテ
 製リシモノナリ 髪ハ緑青ニテ彩色シタルモノ
 ナレ共今ハ其凹處存シ在ルヲ見ル
 裏面無銘 惣テ蠟色塗リニテ大ヒニ剥落ヲ
 生ス 材料ハ檜 極ク精巧ナル作 頸下缺
 失ス